

(仮称)相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業 「都市計画市素案」に関する説明会について

説明会状況

令和2年2月13日(木)、2月15日(土)に本事業における「都市計画市素案」に関する説明会を開催しました。説明会は、旭公会堂で実施し、両日合わせて251名の方にご参加いただき、都市計画市素案について、様々なご意見をいただきました。

説明会周知方法

対象事業実施区域から約500m圏にかかる町丁の全域及び一部地域にポスティング(約2.5万部)をするとともに、横浜市HP及び広報よこはまへの掲載や、西谷駅、鶴ヶ峰駅、二俣川駅へのお知らせの配架、旭区連合自治会町内会連絡協議会に周知を行っています。

主な説明内容(スライド資料はHP掲載済み)

都市計画市素案等の説明

- (1) 鶴ヶ峰駅周辺の状況等
- (2) これまでの経緯等
- (3) 都市計画市素案の概要等
 - ① 都市計画に定める事項
 - ② 都市計画決定する区域と考え方
 - ③ 都市計画市素案の概要
- (4) 今後の手続について

※スライド資料(約60ページ)にて説明

鶴ヶ峰駅付近の課題 16

◆路切遮断による課題等

慢性的な交通渋滞

災害時等における緊急活動への影響

歩行者の安全性(通学路や高齢者の歩行)

鉄道によるまちの分断

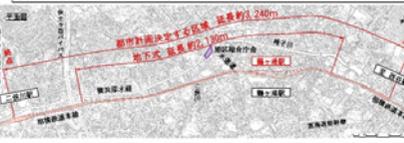
など

課題解決のためには…
鉄道を地下化することにより、連担する踏切を一挙に除却する
連続立体交差事業が効果的!

都市計画決定する区域の基本的な考え方 24

◆基本的な考え方

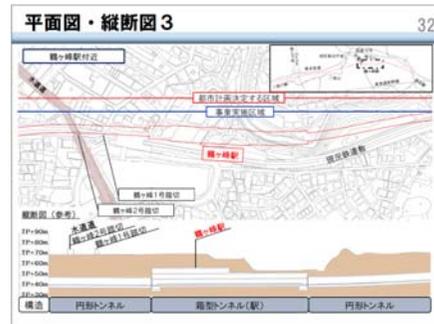
民地への影響を最小限にするため、原則として、現況鉄道敷内
で計画
現況鉄道敷外から外れる場合でも、横浜市所有の用地等を活用し、
民地への影響を最小限にする計画
鶴ヶ峰駅は、駅利用や工期、周囲への影響を最小限にするため、
現在の駅の位置よりも北側の地下に設置する計画



都市計画市素案の概要 45



路線名	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)
起点	保土ヶ谷区西谷町
終点	旭区二俣川2丁目
延長	約3,240m(うち地下式約2,130m)
構造形式	地下式、地表式
旭区白根一丁目及び鶴ヶ峰二丁目地内に鶴ヶ峰駅を設ける。	



説明会の様子



説明会の主な質問と回答の要旨

- Q1: 相模鉄道(鶴ヶ峰駅付近)を次期連続立体交差事業とした理由は?**
 A1: 平成28年3月に公表した「横浜市踏切安全対策実施計画」において、連続立体交差候補5区間を対象に、開かずの踏切数や交通遮断量、優先整備路線の有無、まちづくりなどの項目で総合的に評価し、相模鉄道本線「鶴ヶ峰駅周辺」を最も優先的に事業化の検討を進める区間としました。
- Q2: 駅が北側に計画されているとのことだが、駅出入口はどこになるのか?**
 A2: 現時点では、確定した計画はありません。まちづくり等との進捗を見ながら、駅内部の詳細については、今後検討を進めます。
- Q3: ホームの幅はどの程度になるのか?**
 A3: ホームは、2面2線の相対式で、ホーム幅は約4~6mを想定しています。駅内部の詳細については、今後検討を進めます。
- Q4: 保土ヶ谷バイパスと二俣川駅の間にある、本村こ線人道橋と二俣川地下道はどうなるのか?**
 A4: 本村こ線人道橋は、鉄道の地下化後に撤去を計画しており、二俣川地下道については、存置させる計画としています。
- Q5: 施工はどのように行っていくのか? 駅部は、市営住宅跡地を利用して工事をするとのことだが、駐輪場や保育園はどうなるのか?**
 A5: 今後、詳細な施工計画の検討を進めます。今回の都市計画区域外においても、進入路、作業ヤード等が必要になる可能性があります。
- Q6: 搬出ルートや工事騒音、河川の水質についての説明がなかったが?**
 A6: 都市計画手続とは別に、環境影響評価手続も実施しています。その手続の中で、調査・予測・評価等を行っていきます。